

RDUF小委員会 提案書

1. 運営区分	3
2. テーマ	国内の分野リポジトリ関係者のネットワーク構築
3. 目的	研究データを安定的に公開するためには信頼できるデータリポジトリであることが重要です。国内にあるデータリポジトリの信頼性を国際的に期待されている水準にすることが求められています。分野リポジトリが論文に付随したデータの公開を求められる場合も増加しています。研究データを公開している分野リポジトリへの要求も多様化しており、対応すべき課題が発生しています。本小委員会において関係者の関心のあるトピックのいくつかについて議論する場を提供し、分野リポジトリ関係者の人的ネットワークを作ることを目的とします。
4. 成果物	参加者にとって分野リポジトリ運用上抱えている問題を整理し、分野リポジトリの信頼性を高めるために必要な検討事項をまとめます。 活動を通して、リポジトリ関係者の人的ネットワークを構築します。
5. 成果のインパクト	研究データの分野の違いに加え、リポジトリの設立経緯の違いにより、参加リポジトリ関係者の持つ背景知識や経験は異なっています。議論を通してその違いを認識しながらリポジトリ運営に資するコミュニティを形成することが見込めます。
6. 小委員会の活動計画	まず、参加リポジトリの特徴、対象としているデータ、対象としているデータ提供者、データの受け入れの条件等現状を確認することから始め、委員から関心のあるトピックを集めます。 12月に行われる国際データワークショップのプレイベントとして第5回CODHセミナー/第2回DIASオープンサイエンスセミナーを企画し、データリポジトリの認証機関CoreTrustSealを具体的なターゲットとして、認証取得を視野に入れた実践的なセミナーを共同開催します。参加者にとって認証取得が必要かどうかを判断するために、認証取得の必要条件を理解し、リポジトリの現状を客観的に見直すきっかけとします。 委員の関心の強いトピックを選んで議論する場を作り、関係者の認識を共有し、共通する問題点と先進事例を集め整理します。 想定されるトピックは 例えば論文付随データ受け入れ、メタデータやメタメタデータ管理、データ共有、データ管理、持続可能性、国内の法的枠組み、データの商用利用やDOIを始め識別子の導入、データ利用促進や利用に関する情報収集、人的リソースの配置、 などです。
7. 初期委員 (所属)	絹谷弘子 (個人会員、DIAS)
8. その他	委員としては、研究データ、特に分野リポジトリに関与し、分野リポジトリ運営の意思決定者に働きかけることができる今までに実務を担当している方、研究者との交流のある方を想定しています。